

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171300197		
法人名	有限会社 恵コーポレーション		
事業所名	グループホーム紅葉館 1階ユニット		
所在地	北広島市虹ヶ丘8丁目2番地11		
自己評価作成日	平成30年1月7日	評価結果市町村受理日	平成30年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0171300197-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者の一人ひとりの意欲や関心を尊重するため、食事に関しては特別メニュー(リクエストランチ・ディナー)を月1回以上実施している。また、外食の機会を設けて食の楽しさを感じてもらえるように定期的に実施している。
- ・入居者が円滑な共同生活の中で安心して生活が出来るように、ユニット間での交流や職員同士の情報の共有に努めています。体調変化には十分注意を払い、協力医療機関と連携を図り、相談・報告を行うことで健康管理に努めています。
- ・地域社会の一員として地域に貢献するという理念に基づき、町内会活動や行事への積極的に参加しながら、地域の方々との交流にも力を入れています。
- ・1年を通して、お花見、花火大会、夏祭り、紅葉見学、クリスマス会などの行事を毎月実施することで、季節を感じると共に、メリハリのある生活が送れるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR上野幌駅から徒歩10分ほどの、大きな道路に面した場所にある2階建て2ユニットのグループホームである。周辺にはスーパーやドラッグストア、日帰り温泉などがあり利便性に優れている。建物内は明るく清潔で、広い浴室やトイレ、床暖房、エレベーターなどの設備が整っている。居間の窓からは河原の風景や列車の走る様子を眺めることができる。職員は理念をよく理解し、職員同士の良好な協力関係ができています。法人としても職員が働きやすいよう、勤務体制の整備や資格取得の支援を行っている。地域との関係では、地域行事への参加や保育園児、ボランティアとの交流を行うとともに、認知症カフェの運営や市内の認知症に関する講習への協力も行っている。ケアマネジメントの面では、介護計画のモニタリングやカンファレンスを適切に行い、関連する記録類も整備されている。職員は計画目標を意識して日々の記録を行っている。受診支援の面では、往診体制と通院支援体制を整え、詳しい受診記録を作成している。外出支援の面では、日常的に公園や買い物、図書館、地区の会館などに出かけている。年間行事も豊富で、花見や紅葉狩りの他、和食レストランへの外食や大型ショッピングセンター、開拓の村などに出かけている。快適な環境のもと利用者が楽しく安心して過ごすことのできるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を作成し、毎日の朝礼で唱和している。また、運営理念を踏まえたユニット目標を各ユニットで作成し、実際のケアに繋げるよう努め、各個人目標を設定して取り組んでいる。	3項目からなる独自の運営理念の中に「地域社会の一員」「地域に貢献」という文言を掲げている。理念を玄関や各ユニットに掲示し、朝礼で唱和して共有している。職員は理念をよく理解し、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や催事にできる限り参加できるよう努めている。また、保育園児の慰問、町内会のコーラスボランティアの定期的な訪問や町内会清掃活動にも参加している。	地域の夏祭りや町内会の親睦会に利用者と一緒に参加している。事業所の夏祭りやクリスマス会に地域の方の参加を得ている。また、保育園児が年1回事業所を訪れたり、毎月コーラスのボランティアの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域たすけあい会議への参加や中学生職業体験の受け入れ、小学生車椅子体験学習のサポーターとして参加している。また、認知症カフェの運営委員として活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し活動内容・事故報告などを通して、話し合いの場を設けている。参加の呼びかけに対しては案内文と共に前回の議事録の送付や毎月発行している通信に掲載し、参加を募っている。	市と地域包括支援センター職員、町内会長、連合町内会役員の参加を得て2か月毎に会議を開催しているが、家族の参加は得られていない。地域交流や認知症相談、事故対応などを話し合っている。議事録を家族に送付している。	引き続き家族の参加を呼びかけるとともに、難しい場合は家族の意見を得て会議で話し合うなどの取り組みを期待したい。また、より計画的にテーマを設定し、話し合いを行うことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や北広島市介護サービス連絡協議会、地域たすけあい会議を通じて毎回、市の担当者が出席しており、連帯を図っている。気軽に相談できる関係が築けている。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加があり情報提供を受けている。市内の各種の会議に出席したり、認知症に関する講師の派遣、認知症カフェの運営などに事業所として協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関先にセンサーアラムを設置し、玄関の施錠はしないように工夫をしている。施錠は防犯の為、夜間帯のみにしている。身体拘束についてもマニュアルを作成し、職員全員に周知し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的行為を記したマニュアルを整備し、会議で話し合っている。今後は定期的な勉強会も予定している。玄関は日中は施錠せず自由に出入りすることができる。出入りがあればセンサー音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部で実施されている虐待研修会などの利用や各ユニットで不適切ケアについて会議で話し合いを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

グループホーム 紅葉館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度利用している入居者がおり、知識を学ぶ機会はある。平成28年7月からスタートした北広島市成年後見センターの機能についても説明会に参加し、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改定等の際には十分な説明を行い理解・納得を頂ける様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議の案内、ご家族来館時に意見や要望を聞く機会を設けている。	家族は平均して月1回以上来訪しており、来訪が少ない家族には職員が電話で連絡している。家族と話した内容を「経過記録」に記載し、職員間で共有している。また、毎月「虹の橋便り」を家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の各ユニット会議や全体会議、個人面談などを行い職員の意見や提案できる機会を設けている。	毎月のユニット会議と3か月毎の全体会議の場で職員が活発に意見交換している。管理者は年に数回、職員と個人面談を行っている。また、職員は行事やお便り作成、防災、室内装飾などを分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の努力、資格取得に応じて各種資格手当の付与や正社員への登用などを行っている。また、資格取得のための支援や有給休暇が使用しやすいように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格獲得に向けたスクーリングなどの予定に勤務調整をしている。また、今必要な技術や知識を聞き取り、内部に講師を招いての勉強会や職員が講師となりユニット内で勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域たすけあい専門職の集まりや北広島市介護サービス連絡協議会の同業者と情報交換に努めている。市内のグループホームとの見学交流会にも参加している。また、同地域のグループホーム運営推進会議にも出席し合っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談を行い、ご本人の他、ご家族や関係者から情報収集し、ご本人の要望に対応できるように努めている。同時に安心できる関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者が窓口となり、ご家族や介護担当者から情報収集し、不安や要望について聞き取りしながら、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力医療機関の往診や通院、訪問マッサージなどその都度本人、ご家族と相談して同意を得た上で実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット同士の交流を図ったり、家事活動・行事などの参加を促進して、入居者、職員同士だけでなく地域との関わりも持てるよう工夫している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	恒例行事へ家族参加をして頂いたり、日々の生活状況を伝え、本人と共に介護方法や生活スタイルについて相談しながら進めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域活動や行事の中で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	5～6名の利用者に近所に住んでいた友人や宗教関係の知人が来訪し、中には外食や教会と一緒に出かけ方がいる。部屋に電話を設置し利用する方や地域の会館やミニデイサービスに出かけ、知人と会うことができる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット同士の交流レクリエーション、行事、共同生活を通して孤立せず、人間関係が閉鎖的にならないように努めている。また、一人ひとりが孤立しないよう職員が関わるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の行事訪問をして頂いたり、相談があれば都度、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に相談している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らしの希望などは計画作成担当者が中心となってその把握に努めている。不確かな場合は、関係者と意見を出し合い、汲み取れるように努め、必要とあればケアプランに反映するようにしている。	4～5割の方は言葉で思いや意向を表出できる。センター方式のアセスメントシートを作成し、そのうち「心身の情報シート」を毎年更新している。また、「暮らしの情報シート」についても定期的な更新を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族などから聴取した内容を記録として残し、他の職員にも伝達できるようにしている。入居後もご本人・家族から生活歴を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録から、現状の把握に努め、職員間での情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、ご家族、職員の意見等を聴取しケアプランに反映している。また、設定期間ごとの見直しだけでなく、状況の変化など必要に応じて変更している。	3か月毎にモニタリングを行い、計画を6か月毎に更新している。計画作成者が職員の意見を聞き取ってモニタリングを行い、カンファレンスを経て次の計画を作成している。日々の「生活支援記録」に計画目標の実施状況を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録をしている。職員間の申し送りを実施して、情報の共有に努め、必要であればケアの見直しをしている。申し送りには計画作成担当者や管理者を交えて行い、必要に応じてケアプランに反映させるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自施設でまかなえない部分は、外部サービスなどに繋げることで、一人ひとりの多様なニーズに応えるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、地域包括支援センターや他事業所の協力も得ながら、暮らしを楽しむことができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には隔週で往診に来てもらっている。その他にも必要な場合、希望などがあれば通院などができるように配慮している。	協力医療機関による2週に1度の往診があり、協力医やその他の通院は主に事業所で送迎している。受診内容を個人毎の受診記録に詳しく記載し、共有している。	

グループホーム 紅葉館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関から週1回看護師に訪問してもらっている。生活状況を伝え、アドバイスや受診の必要性などを指導してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員を窓口にも病棟看護師などを通して、情報交換し相談している。また、医師、看護師、御家族と相談しながら、入退院について話し合いを持っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に入居者が重度化した場合の指針についてはあらかじめ説明し、文書で同意もらっている。実際に重度化した場合にも再度ご家族、本人の意向を確認しながら、本人にとってより良い生活ができるように、繰り返し話し合いを行っている。	利用開始時に「重度化した場合の医療体制指針」を説明し、署名捺印を得ている。重度化した場合は基本的に医療機関に入院となる場合が多く、その旨を説明している。市が行う看取りの研修を半分ほどの職員が受講済である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習会を受講するようにしている。緊急時に備えて連絡網、入居者情報、傷病者情報を作成し、すぐに取り出せるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定を含めた避難訓練を繰り返し実施している。運営推進会議で地域との協力についてお願いしている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防署や地域の消防団の協力を得て実施している。職員の救急救命訓練を計画的に進め、災害時に必要な備蓄品を整備している。市の防災マニュアルを参考に地震や水害への対応を話し合っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をユニット目標として掲げたり、ユニット会議の中で取り上げ介護にあたる基本として確認している。	ユニット会議で不適切ケアや接遇での課題を話し合い改善している。申し送りは、本人が特定されないように、部屋番号を用いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の立場に立って考えたり、複数提案する事で自己決定できる場面をつくるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のリズムに合わせて、一人ひとりのペースで過ごせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪をとくしたり、服を選ぶお手伝いなどに応じて支援している。また、希望時には理容室に出かけたりしている。		

グループホーム 紅葉館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付けや食器洗い、調理補助などを行ってもらい食事が楽しみになるよう支援している。	栄養バランスが取れた食材会社の献立である。また、出前、外食、行事食、月一回のリクエストメニューなどを取り入れ、楽しい食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲水量や食事の摂取量を毎回記録し、把握に努めている。また、個々に応じた食事形態や栄養補給が出来るように主治医・訪問看護師との連帯にも情報を活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施して必要であれば協力医療機関の歯科医院と連帯を図り、治療や定期的な口腔ケアなども行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活かし、定期的にトイレ誘導を行い、自立での排泄の支援に努めている。	「排泄水分摂取量チェック表」で利用者全員分を記録し、個々の排泄パターンを把握している。トイレ誘導の際は直接的表現を避けるなど、声かけに配慮がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や体操を継続的に行っていけるように働きかけている。また、食物繊維やオリゴ糖を多くとれるように支援して便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午前から午後まで入浴が可能で、各利用者が週2回以上入浴できるように支援している。また入浴剤を使用したり、希望に応じて同性介助でも対応することで、気持ちの良い入浴を支援している。	3方向開放型の浴槽や電動昇降座浴を設置し、湯船に入りやすい。声かけは職員間で連携を取り、気持ちよく入浴ができるよう支援している。利用者は好みの湯道具を使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが必要な休憩がとれるように活動時間や体力的な事も検討し、1日のリズムが作れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を整備し、個別に管理している。変更があった際にはその都度、情報を更新し周知すると共に様子観察にも努め、医療機関へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	館内の活動(家事活動・館内行事等)の他、地域のサロンや交流カフェに出掛けたり、レクリエーションを通して、楽しく過ごす事ができるように支援している。		

グループホーム 紅葉館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	館周辺を散歩に出かけたり、季節より花見や紅葉狩りなどの季節行事などの外出活動も行っている。また、地域の方々にも協力してもらい町内のイベントなどにも参加している。	天候のよい時期は近隣の公園への散歩を楽しみ、個別の外出では図書館へ本を借りに行ったり、買い物に出かけている。サーカスやオレンジカフェ、福祉クリスマス会、道の駅、千歳空港など豊富な外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は、自由に本人管理している。それ以外の方に対してはホームで立替えて買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて自由に電話を掛ける事ができるようにしている。また、本人の居室に電話を設置している方もいる。手紙に関してはポストへの投函の手伝いをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間や居室は常に掃除を行い、温度計・湿度計を設置し、室温調整も適切に行っている。また壁飾りなどで季節感を取り入れたり、行事の写真を貼ったりしている。	ダイニングルームの他にゆったりとしたソファコーナーの居間があり、寛げる居場所を確保している。床暖房を設置し、寒さ対策に配慮している。利用者の作品や季節の飾り付け、行事の写真を掲示している。トイレは1ユニット4か所あり、表示も大きく場所が分かるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者自身が各々過ごしやすい居場所を見つけている。また入居者同士が歓談されたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの入居者が自宅で使い慣れた家具や物品、思い出の品を使用出来るように伝えて、持ち込んで頂いている。	居室入り口には自室と分かる表示がされている。居室内は、クロゼットが備え付けであり、床暖房を設置している。好みの家具や調度品が置かれていたり、趣味事ができるように環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来ること」「出来ないこと」を見極め、出来る限り自立した暮らしができるように、一人ひとりに合わせた支援をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171300197		
法人名	有限会社 恵コーポレーション		
事業所名	グループホーム紅葉館 2階ユニット		
所在地	北広島市虹ヶ丘8丁目2番地11		
自己評価作成日	平成30年1月7日	評価結果市町村受理日	平成30年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0171300197-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者の一人ひとりの意欲や関心を尊重するため、食事に関しては特別メニュー(リクエストランチ・ディナー)を月1回以上実施している。また、外食の機会を設けて食の楽しさを感じてもらえるように定期的に実施している。
- ・入居者が円滑な共同生活の中で安心して生活が出来るように、ユニット間での交流や職員同士の情報の共有に努めています。体調変化には十分注意を払い、協力医療機関と連携を図り、相談・報告を行うことで健康管理に努めています。
- ・地域社会の一員として地域に貢献するという理念に基づき、町内会活動や行事への積極的に参加しながら、地域の方々との交流にも力を入れています。
- ・1年を通して、お花見、花火大会、夏祭り、紅葉見学、クリスマス会などの行事を毎月実施することで、季節を感じると共に、メリハリのある生活が送れるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を朝礼で唱和し尊厳と安心ある生活を支援できるように努めている。特に地域との関わりや交流を積極的に行えるように実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夏祭りやクリスマス会、親睦会などに参加したり、町内のコーラスボランティアや保育園児を招くことで地域の方々との交流の機会を多く設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域たすけあい会議への参加や中学生の職業体験の受け入れを行っている。認知症カフェには運営委員として参加している。また認知症サポーターキャラバンメイトとして活動も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。活動内容、事故報告などについて報告し、参加者から意見を頂きサービス向上に活かすように努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回運営推進会議には参加して頂いている。また北広島サービスネットを通じて、グループホーム部会会議にも参加して頂き連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束禁止について理解すると共に拘束を必要としないケアの実践に努めている。玄関の施錠についてもセンサーチャイムを設置して施錠はしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修などに参加することで、学ぶ機会を設けている。日々の業務の中で虐待防止を意識してケアを行うように努めている。		

グループホーム 紅葉館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者がおり、学ぶ機会はあるが、すべての職員が十分に理解するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者・家族への十分な説明を行った上で、理解・納得してもらい同意を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族との話し合いの中で、本人の意思や家族の意見・要望を聞く機会を定期的に設けている。玄関には意見箱を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や個人面談などを通して、個人の意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを心がけ、個々の実績や要望の把握に努めている。また、各種手当の付与や正社員への雇用、有給休暇活用などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の要望に合わせた内部研修を実施したり、キャリアアップ制度を利用した外部の研修などにも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議の構成員や北広島市介護サービス連絡協議会の会員として同業者と情報交換を行っている。また同地区のグループホームの運営推進会議にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者を中心に情報収集を行い、本人の要望に対応できるように努め、安心できる関係の構築を目指している。事前に施設見学なども積極的にすすめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画担当者が中心となり、ご家族や介護者から情報収集を行い、不安な点や要望などに聞くことで信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力医療機関の往診・受診や訪問マッサージなど、本人・ご家族と相談し同意を得た上で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中でコミュニケーションを図るとともに、家事活動や行事を一緒に行い楽しむことで共に過ごす関係を築くことができている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活状況などを定期的にご家族に報告し、共に介護やケアについて相談しながらすすめている。また行事への家族参加もすすめている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域活動や行事、面会を通して本人の馴染みの人や家族との関係を支援している。また馴染みの場所などへも行けるように外出の支援にも努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースを利用した入居者同士の交流の機会を持てるように、職員が関わりながら支援している。またレクリエーションや行事などを通して入居者同士が楽しめるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も行事訪問して頂いたり、必要に応じて協力機関や地域包括支援センターなどに相談し支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画担当者を中心に本人の思いや暮らしの希望などの把握に努めている。不確かな場合は、本人の立場に立って意見を出し合い、汲み取れるように努め、必要であればケアプランに反映するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活状況や暮らし方などを、本人やご家族から情報提供して頂き、基本情報として職員間での共有することで把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察を行い記録に残し、現状の把握に努めている。また職員間での情報の共有にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施すると共に、職員やご家族の意見などを聴取し、計画作成担当者がケアプランの見直し・作成に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録に記入している。同時に職員間の申し送りを実施して、情報の共有に努めている。申し送りには、計画作成担当者や管理者を交えて行い、必要であれば実践やケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族のニーズに合わせ自施設でまかなえない部分は、外部サービスなどにつなげる事で、一人ひとりの多様なニーズに応えられるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、地域包括支援センターの協力も得ながら、暮らしを楽しむことが出来るように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の主治医には隔週で往診にきて頂いている。その他にも必要な場合や希望などがあれば通院などが出来るように配慮し支援している。		

グループホーム 紅葉館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の訪問看護を通して、毎週個々の生活状況等を報告・相談してアドバイスや受診の必要性などの指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員を窓口に関係者との情報交換を行い相談している。また、医師・看護師・ご家族と相談しながら、入退院について話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の指針については、あらかじめ説明をして文書で同意をもらっている。実際に重度化した場合にも再度ご家族、本人の意向を確認しながら、医療機関と連帯をとり、チームでの支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習会を受講したり、緊急時のマニュアルや職員の連絡網を作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導の下で、初期消火訓練及び、様々な状況を想定した避難訓練を実施している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個人のプライバシーに配慮した言葉かけを行っている。またケアの基本として会議や研修会の議題として取り上げ確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を確認し、自己選択・自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の生活リズムやペースを尊重しながら、個人の希望に沿った暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせた整容の手伝いやおしゃれが出来るように支援している。また毎月訪問理美容を招き、個々の希望に沿って髪を整えられる機会を設けている。		

グループホーム 紅葉館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に合わせた食事を提供できるように心掛けている。また調理補助や後片付け、食器洗いなどの家事活動も一緒に行えるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を記録し、適切な量を確保出来るように支援している。また一人ひとりに合わせた食事・水分形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりにあった口腔ケアを実施している。必要に応じて、協力医療機関の歯科医院と連携を取り、定期的な口腔ケアや治療なども行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、声かけや誘導により自立での排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量を把握し、不足しないように働きかけている。個々に合わせた運動を行えるようにも働きかけ便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や希望にも配慮しながら、週2日以上入浴が出来るように支援している。入浴日以外でも足浴を行うなど、気分転換につながるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体力的な面にも配慮しながら、無理なく休息がとれたり、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を整理・確認しながら理解・把握に努めている。また服薬後の様子観察をしっかりと行い、医療機関へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせたアクティビティ(散歩・買物・工作・縫物)などを行いながら楽しく気分転換が図れるように支援している。		

グループホーム 紅葉館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物へ出かけられるように支援している。また家族との外出の機会や地域行事への積極的な参加を通して、外出を楽しんでもらえるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方は、本人管理のもとでお金を自由に使ってもらっている。管理が難しい方は、ホームの立て替えて買い物などを行えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に合わせ自由に電話が出来るようにしている。必要に応じて傍で見守りを行い、サポートするようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共有スペースは毎日清掃を行っている。その都度、照明設備や空調設備を調整することで、居心地よく過ごせるように配慮している。また、入居者とともに季節に合わせた壁面飾りなども作成したり、写真を飾ることで季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルやリビングのソファなどで、ひとりで過ごすこともあれば、入居者同士会話を楽しむなど、各々が自由に過ごせる空間づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人の使い慣れた家具を持参して頂いたり、思い出のある写真や馴染みの物を置くことで居心地の良い環境になるように配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内や廊下などにはすべて手すりが設置されており、トイレも車椅子のまま使用できるような設備になっている。建物内部はすべてバリアフリーとなっている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム紅葉館

作成日：平成 30年 2月 8日

市町村受理日：平成 30年 2月 8日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議への参加を継続的に働きかけているが、参加に結びついていない状況である。	運営推進会議への家族参加率を高める。	議事録での家族報告と案内状の送付は継続的に行っていく。 参加が難しい時は、家族の意見を得て会議の議題として取り上げてみる。	12ヶ月
2	23	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めているが、今後もその人らしい暮らしが続けられるように支援していきたい。	アセスメントシートの充実を図り、一人ひとりの思いや意向について把握するように努めて行く。	センター方式のアセスメントシートの定期的な更新を行い思いや意向について把握していく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。